

第13講 【 蔵象 VI 】 教科書 P.44～46

『 腎 』

[別称] 作強の官 『 素問 』 ; 先天の本

[位置] 背の第14椎に付く

[特徴] 蔵を好み、瀉を嫌う ; 温を好み、冷を嫌う

[生理機能]

: 腎には“精を蔵す”“津液を主る”“納気”“封閉”等の働きがある。

1. 精を蔵す (蔵精)

: 腎は精を蓄え、生命活動を支えている。

精とは:

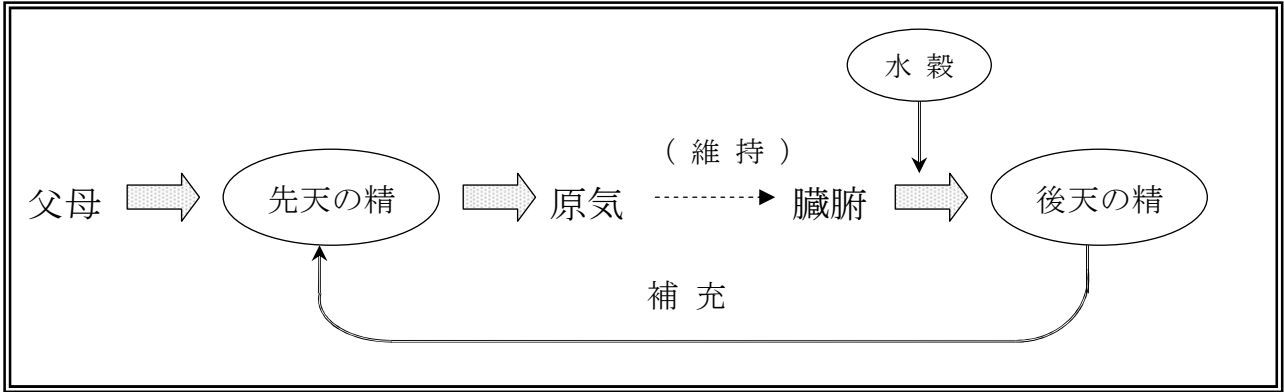
人体の生命活動を維持する最も基礎となる物質。精には父母に由来する先天の精と水穀に由来する後天の精がある。蔵精の考え方にも諸説があるが、ここでは主に先天の精を指していると考えていただきたい。

- 1) 精の働き
- ① 元気を化生し、生命活動を維持する。
 - ② 天癸を化生し、生長・発育・生殖機能を促進・維持する
 - ③ 髓を生成する
 - 髓 { 脳髓 - 脳
 - { 脊髄 - 脊柱
 - { 骨髄 - 骨格 } 機能正常
 - ④ 上竅を滋養する: 視覚・聴覚等を維持する

2) 蔵精の象

- 腎精が充実 → 体力・気力が充実・・・元気が良く、疾病にかかりにくい
 集中力がある 等
- 腎精が不足 → 体力・気力が減退・・・活動低下、体が冷える、生殖能力低下
 疾病にかかりやすく治りにくい
 ⇒ 老化現象

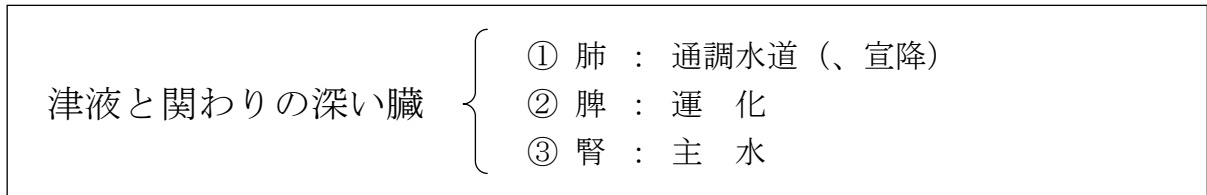
3) 先天の精と後天の精の関係



2. 津液を主る (主水)

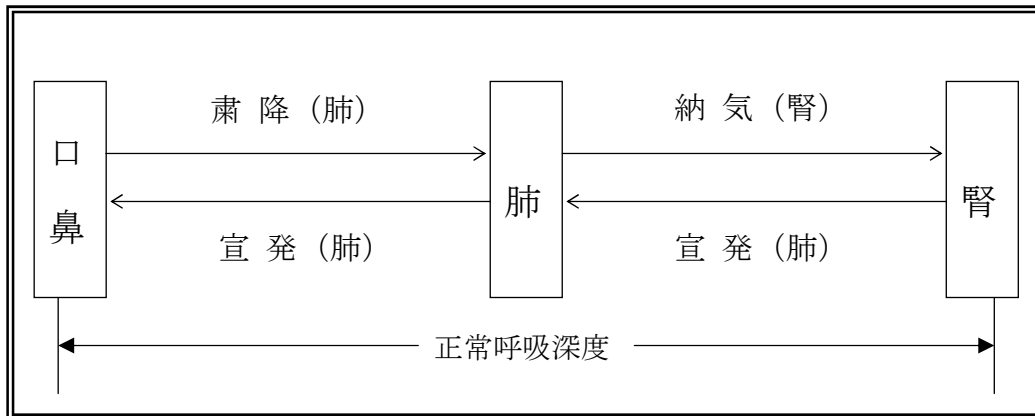
: 腎は全身の津液代謝を調節する働きを持つ。

低下 → 浮腫、尿閉、頻尿、下痢 等



3. 納気 (を主る)

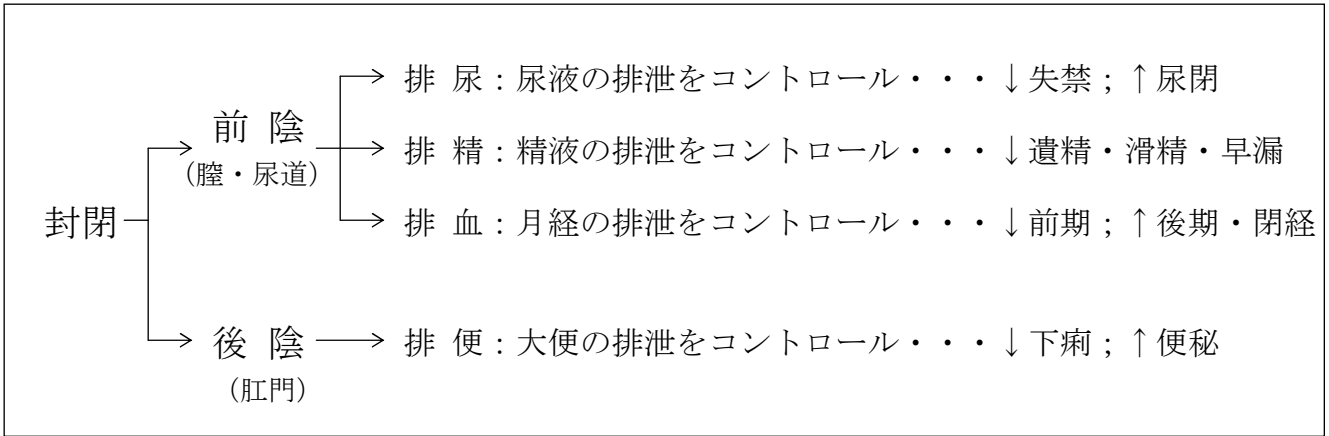
: 腎は呼吸の一部を主っている。



低下 → 呼吸困難 : 呼多吸少

4. 封閉（を主る）

：腎は二陰を封閉（密封・閉鎖）する作用を持ち、二陰の開閉を管理する。



【 命門とは 】

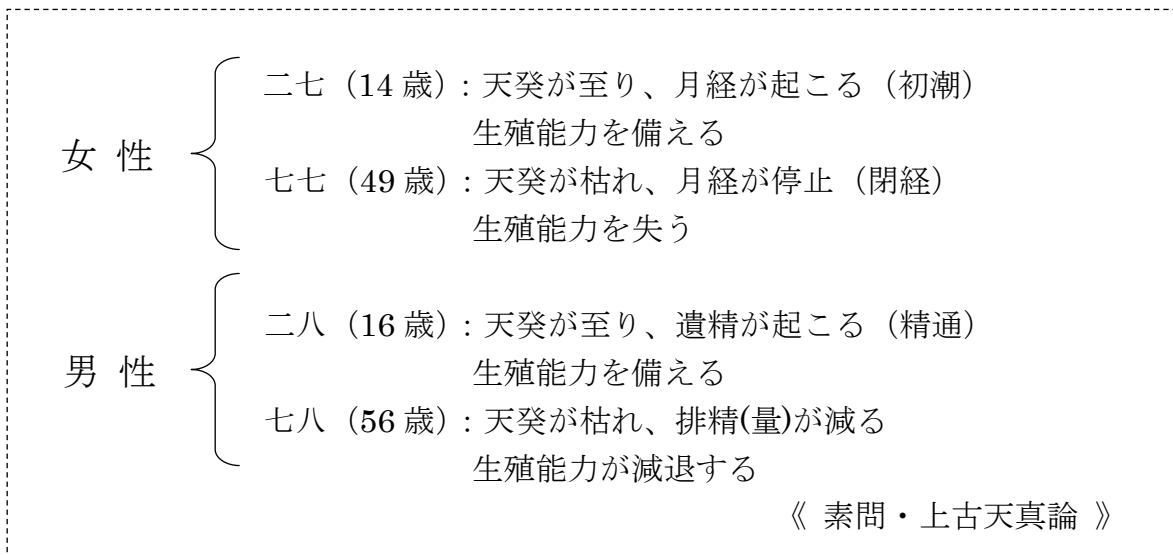
* 生命の要の意味であり、先天の精が蔵されている部を指す。

* 命門とは腎陽の働きを指す。

* 部位 { ① 経 穴
② 両 腎
③ 右 腎 等諸説あり

【 天癸とは 】

：腎精が一定量溜まると人体内で自然に生成される液状物質で、性器官の発育と成熟を促し、生殖能力を備えさせる働きを持つ。



〔 系統 〕

主	華	官	液	神	志
骨髓	髪	耳・二陰	唾	精志	恐・驚

その他： * 腰：「腰は腎の府」
 * 齒：「齒は骨の余り」

『 心包 』

〔 別称 〕 臣使の官『素問』；膻中；心包絡（正式名称）

〔 位置 〕 背の第4椎に付く

〔 特徴と生理機能 〕

- * 心包は心の外面を覆う膜で、心の保護作用を持つ。
- * 外邪等の病因が心を犯そうとする際に、まず心包が病因を受け簡単に心に病が起こらないようにする。
- * 陰陽や五行等の属性は心と同じ。